



# 「いのちを守るための被災地現地踏査」

3月11日、多くの方が犠牲となった東日本大震災から11年が経過しました。私たちは11年前の難局を組合員で力を合わせ協力して乗り越えてきました。

震災から10年以上が経過し、当時を振り返り「なぜ乗り越えられてきたのか」など、当時の教訓や災害時の対応、防災対策などを私たちはこれまで共有してきました。

3月7日、仙台地本主催の「命を守るための被災地現地踏査」をコロナ禍のため規模を縮小して開催しました。現地踏査のスタートである女川駅に集合し、津波によって倒壊した旧女川交番前で当時の状況や現在の防災対策などを小牛田支部今野委員長からガイドをして頂きました。また、震災後に発生した津波注意報発令時に乗客を避難させた後に運転再開させた事象や石巻線沿線での避難経路についても説明を受けました。



現地踏査を行い過去から学ぶことで防災意識や、いのちを最優先にする行動が取れる的確な判断力を養うことができます。震災から11年が経過し、当時を知らない社員が年々増えてきています。震災を風化させることなく教訓を語り継ぎ、命を守る取り組みを続けていくことが必要です。

災害はいつ起きるか分かりません。昨今、大雨や台風、大雪など私たちの想像をはるかに上回る災害が多発しています。災害に対して、私たちは「何をすべきなのか」「何ができるのか」を日頃から職場や家庭で議論し、事前の準備や訓練を行うことが重要です。これからも仙台地本は職場の組合員とともに安全で、何でも話せる風通しのよい職場を目指していきます。

## 震災を風化させることなく いのちを守るための教訓を継承していこう!